

4 令和5年度 学校評価（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>生徒一人ひとりが自立と社会参加に向けた学習内容や指導方法の充実を図る。</p> <p>成人年齢や選挙権年齢の引き下げに対応した教育を実施する。</p>	<p>①主体的、対話的で深い学びの実践や、3年間の系統立てた授業計画の評価を行い、授業改善につなげる。</p> <p>②成人年齢、選挙権引き下げに伴い、主体的・対話的で深い学びの授業を定着していく。また、指導の共有化を図る。</p>	<p>①授業参観や、授業公開を行い、授業改善に活かす。また、指導案年間指導計画の書式を変更し、評価を活用できる仕組みを作る。</p> <p>②消費者教育、主権者教育、人権教育の充実を図りながら、社会の中での自分の役割を気付かせていく。指導案や教材の蓄積、共有化を図る。</p>	<p>①授業参観等で得られた意見や感想を、授業改善に活かしたか。また、指導案や年間指導計画の評価を活かした授業を計画できたか。</p> <p>②「シチズンシップ教育（指導用参考資料）」等を活用し、新学習指導要領に即した授業展開ができたか。また、「授業の宝箱」内の整理、教科会等を活用して共有化ができたか。</p>
2	生徒指導 ・支援	<p>生徒の個々の実態を的確に把握し、生きる力となるような指導や支援を行う。</p> <p>社会生活に必要な、他者との協調・思いやり、規範・モラルの意識を育む指導を充実させる。</p>	<p>①生徒一人ひとりの実態や発達段階を把握し、集団や個別での授業に活かす。</p> <p>②生徒同士のコミュニケーション力の向上を目指し、他者理解や協調性を養う。</p>	<p>①個別教育計画の新書式の活用と、次年度に向けた書式の検討を行う。アセスメントで把握した実態や発達段階を授業に活かす。</p> <p>②体験型、グループワークの活用、行事等での縦割りの活動を実施し、生徒同士のコミュニケーション力を養う。また、実習や校外学習等を通して社会のルールを学ぶ。</p>	<p>①個別教育計画の新書式の活用や次年度の書式について様々な意見を取り入れ見直しできたか。また、アセスメントで把握した実態等を授業に活かしたか。</p> <p>②グループワークや縦割りの活動を設定し、生徒同士のコミュニケーション力を養うことができたか。また、実習や校外学習等で、社会のルールを学ぶ場面を設定できたか。</p>
3	進路指導 ・支援	<p>生徒が納得できる進路選択を実現できるように、生徒の実態と意思を反映した指導、支援を行う。</p>	<p>①-1 生徒自身が課題を意識できる教科等横断的な取組を検討し、3年間を通じた系統的な進路学習を進める。</p> <p>①-2 家庭と学校の連携を深め、保護者のニーズを的確に捉える。ホームページの活用など、よりわかりやすくタイムリーな情報を発信する場を整える。</p>	<p>①-1 就労準備性ピラミッドを活用した職員対象の研修等を複数回実施し、3年間の見通しをもった進路指導の充実につなげる。教科会や作業ユニット会等を通じて、生徒自身が課題を意識できる教科等横断的な取組を検討する。</p> <p>①-2 アンケートの実施や面談等により、保護者のニーズの把握に努める。保護者対象進路研修会を開催する。ホームページや通信、校内掲示等、情報を視覚的に提供する。</p>	<p>①-1 生徒の実態に応じた課題を見極め、生徒自身が課題を意識できる教科等横断的な取組を検討・実践することができたか。</p> <p>①-2 保護者のニーズを把握し、必要な情報をわかりやすく提供をすることができたか。情報発信の場を広げることができたか。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
4	地域等との協働	<p>地域と連携し、教育活動や防災体制の充実を図る。</p> <p>センター的機能を発揮し、地域の支援教育の推進を図る。</p>	<p>①-1 より地域と連携し、自己肯定感を高められる授業を全職員で検討し、展開していく。また、地域と連携した様々な活動の様子を広く発信していく。</p> <p>①-2 地域と連携した防災教育のさらなる充実や職員研修等を通じた防災体制の強化を図る。また、活動の内容を積極的に発信する。</p> <p>②センター的機能について近隣高校を含めた地域に広く発信していく。また、近隣学校等のニーズに応じた支援策を提供できるよう、校内職員の連携を強化する。</p>	<p>①-1 情報共有や検討の場としての作業ユニット会を充実させる。地域と連携した活動を展開していくための仕組みづくりを行う。また、よこひな通信やホームページ等を活用し、活動の様子を発信する。</p> <p>①-2 地域防災拠点や消防署と連携した防災教育、職員研修会を計画・実施する。また、活動の内容が家庭にも伝わるようよこひな通信やホームページ等を通して積極的に発信する。</p> <p>②センター的機能に関する校内職員向けの研修会の実施等を通じて、センター的機能と役割についての理解を深める。人的資源や教材等の校内資源の掘り起こしを行う。</p>	<p>①-1 生徒の自己肯定感を高められるよう、様々な視点から活動内容や授業展開等を検討することができたか。よこひな通信やホームページ等のツールを活用した情報発信をすることができたか。</p> <p>①-2 地域や消防署と連携した防災教育や職員研修について計画・実施することが出来たか。また、活動の内容を定期的に発信することができたか。</p> <p>②センター的機能と役割についての校内職員の理解を深めることができたか。校内資源を生かした情報発信の場の設定や支援策の検討や提供ができたか。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>安全な環境を整備し、生徒が安心して学ぶことができる学校づくりを推進する。</p> <p>教職員が生徒と向き合う時間を確保し、効果的な教育活動を実現する。</p>	<p>①社会の流れ等を踏まえて、教職員の人権意識等を高めるための取組を継続し、信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>②生徒と向き合う時間の確保に向け、業務改善と事故防止の観点から、物的・人的資源を活用し、適正な業務の管理や効率化を図る。</p>	<p>①学校の課題やニーズ、社会情勢の変化を見極めて研修会を設定する。参加者に対して、研修の目的や研修後の変容等を明確にするために、アンケートを実施する。</p> <p>②事故防止に向けた仕組み作りや環境整備に努める。業務アシスタント、業務サポーター、ICT サポーターの効果的な活用を促進する。</p>	<p>①研修後のアンケートで、回収率および研修目的達成の回答が8割以上であったか。また、研修後の気づきを明確にすることができたか。</p> <p>②事故防止に向けた仕組みや環境整備により、教職員の意識が高まったか。業務アシスタント等を活用した業務依頼件数が増加したか。</p>